

IV-2

休日における交通特性について

東北地方建設局 道路計画第二課 野中 宏
高橋 重道
赤森 充

1. まえがき

全国でも有数の魅力を持つ自然資源と歴史的文化資源に恵まれている東北において、観光は地域の活性化の一翼を担うものである。平成元年度における観光入込み客数は、山形県の3,800万人を筆頭に各県とも3,000万人を上回っている。今後は、労働時間の短縮にともない余暇時間が増加し、余暇活動も多様化することが想定されるため、東北各地における観光需要もさらに増加するものと見込まれる。

しかしながら、主要観光地においては、休日交通の集中による渋滞が著しいものとなっている。現状では、休日交通に関する調査が十分に実施されておらず、これらの交通特性は解明されていない点が多い。将来に向けて、観光交通特性を考慮した道路計画手法の確立が今日的課題となっており、東北地建においても平成3年度より「休日交通に対応した道路計画に関する調査」をスタートした。本報告は、その中間報告として、休日交通特性を分析した結果をとりまとめた。

2. 観光地における問題点

①観光における主な利用交通機関

・宿泊観光において利用する交通機関は、全国、東北ともほぼ同じであり、マストラスと自家用車系がそれぞれ半分以上となっている。

・日帰り観光の場合には、移動の自由度の高い自家用車系への依存度が高まる。

・鉄道の分担率をみると全国の2割に対し東北では7.8%にすぎず、東北の日帰り観光は専ら道路交通に依存している。

②観光地における問題点

・交通機関に対する不満では、「混雑」を指摘するものが圧倒的に多い。また、東北では、「連絡が悪い」ことに対する不満が高い。

・観光施設に対する不満で、全国に比べ東北地方において指摘の多いのは「駐車場が少ない（狭い）」で、自動車に依存せざるをえない観光地が多いにもかかわらず、施設整備が遅れていることがうかがわれる。

3. 観光道路の抽出と特性分析

①休日交通が卓越する道路の抽出

・昭和63年度調査で休日交通の観測されている地点で、平成2年度調査の休日交通量が平日交通量よりも多い箇所（以下観光道路と呼ぶ；休日係数1.05以上の箇所を仮定）は315地点で、全調査地点（3,285箇所）の約1割に該当する。

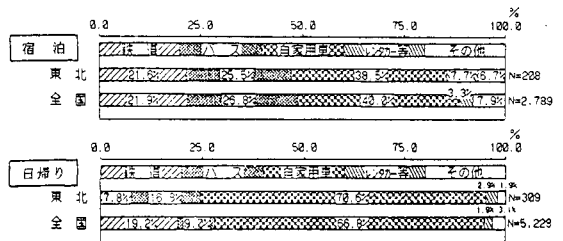


図1 観光における主な利用交通機関

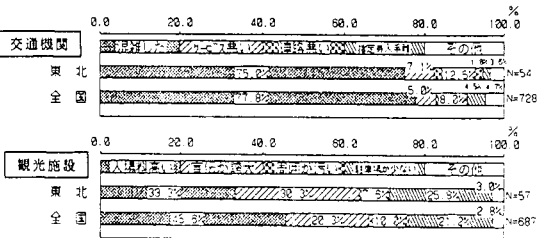
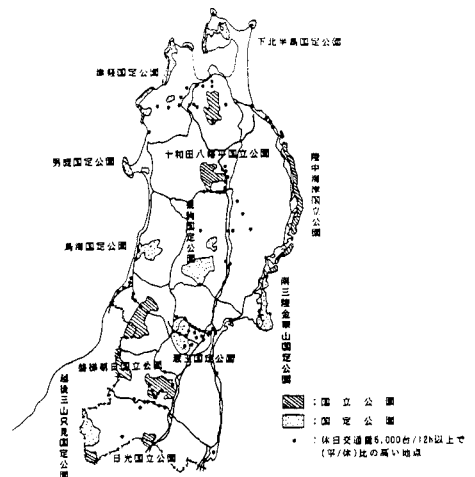


図2 旅行についての不満点



- このうち、休日交通量が 5,000台/12h以上の地点は、93 地点であった（図3）。観光道路は、十和田八幡平国立公園および磐梯朝日国立公園等、いずれも主要観光地にアクセスする路線が該当している。

②観光道路の交通特性

- 先に抽出した観光道路 315箇所の平日と休日の交通特性を比較すると、12時間交通量では平日の 6,900台に対して、休日では 8,500台と 20%以上の増加がみられる。
- このため、休日の混雑度が 1.0以上となる箇所は80地点に上り、主に県間を結ぶ幹線道路で容量不足が目立つ。

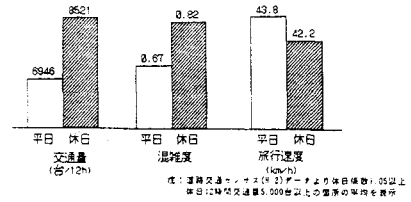


図 4 観光道路の交通特性の平日比較

4. 観光道路と一般道路の交通特性分析

①月変動

- 平成元年度交通通常時観測地点（59地点）の群別月間係数をみると、ピークはいずれも8月である。
- 観光道路においては、5月と10月にも大きな山があるが、冬期（12月～3月）の減少が著しく、月変動が激しい。

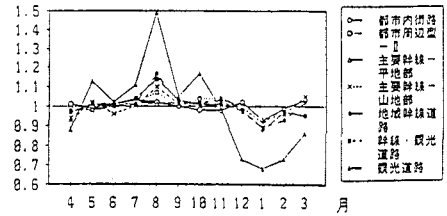
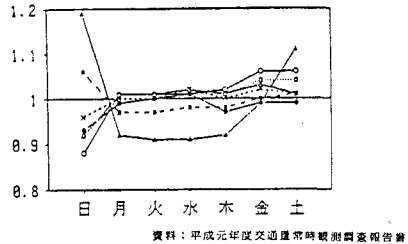


図 5 群別月間係数

②曜日変動

- 一般道路の曜日別交通量は日曜日に若干減少するが、土曜日および平日はほぼ一定であり、曜日変動が小さい。
- 観光道路においては土曜日、日曜日に交通が集中しており、曜日変動が大きい。



資料：平成元年度交通通常時観測調査報告書

図 6 群別曜日係数

③K値

- 四季型観光地の形成が遅れている東北地方においては、春～秋が活動期であること、積雪等による冬期の交通量減少が年平均日交通量を小さくすること等によって、K値（30番目時間交通量の年平均日交通量に対する比率）がかなり大きな値となっている。

④ピーク時間係数

- 観光道路においては、休日の方がピーク時間係数が高い値を示しており、時間的に集中する傾向がうかがえる。

⑤大型車混入率

- マイカー志向の強い観光交通の増加と、業務交通（貨物車類）の減少によって、観光道路では、休日において大型車混入率が著しく低下する。

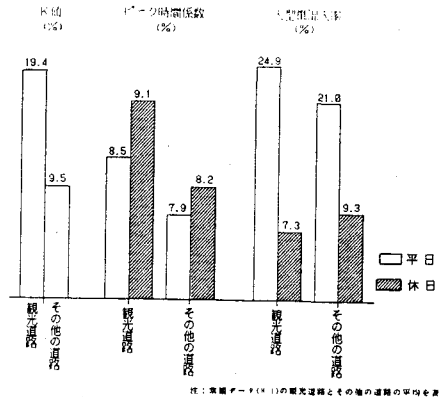


図 7 観光道路と一般道路の交通特性の比較

5. おわりに

東北地建では、昨年度、休日交通が集中する地域において渋滞原因を分析し、交差点改良・駐車場拡充等のハード対策とともに、特定時間帯に集中する大量の交通を適切に誘導・分散するための情報提供等のソフト対策の検討を行い、総合的な「休日交通ボトルネック解消事業」の実施計画を策定した。現在、この計画に基づき渋滞解消に取り組んでいる。

今後は、休日交通の特性を反映した適切な整備を行っていくため、将来休日交通需要推計手法の開発や休日観光交通実態調査を実施することにより、観光道路整備のあり方について検討を加えていくものである。